

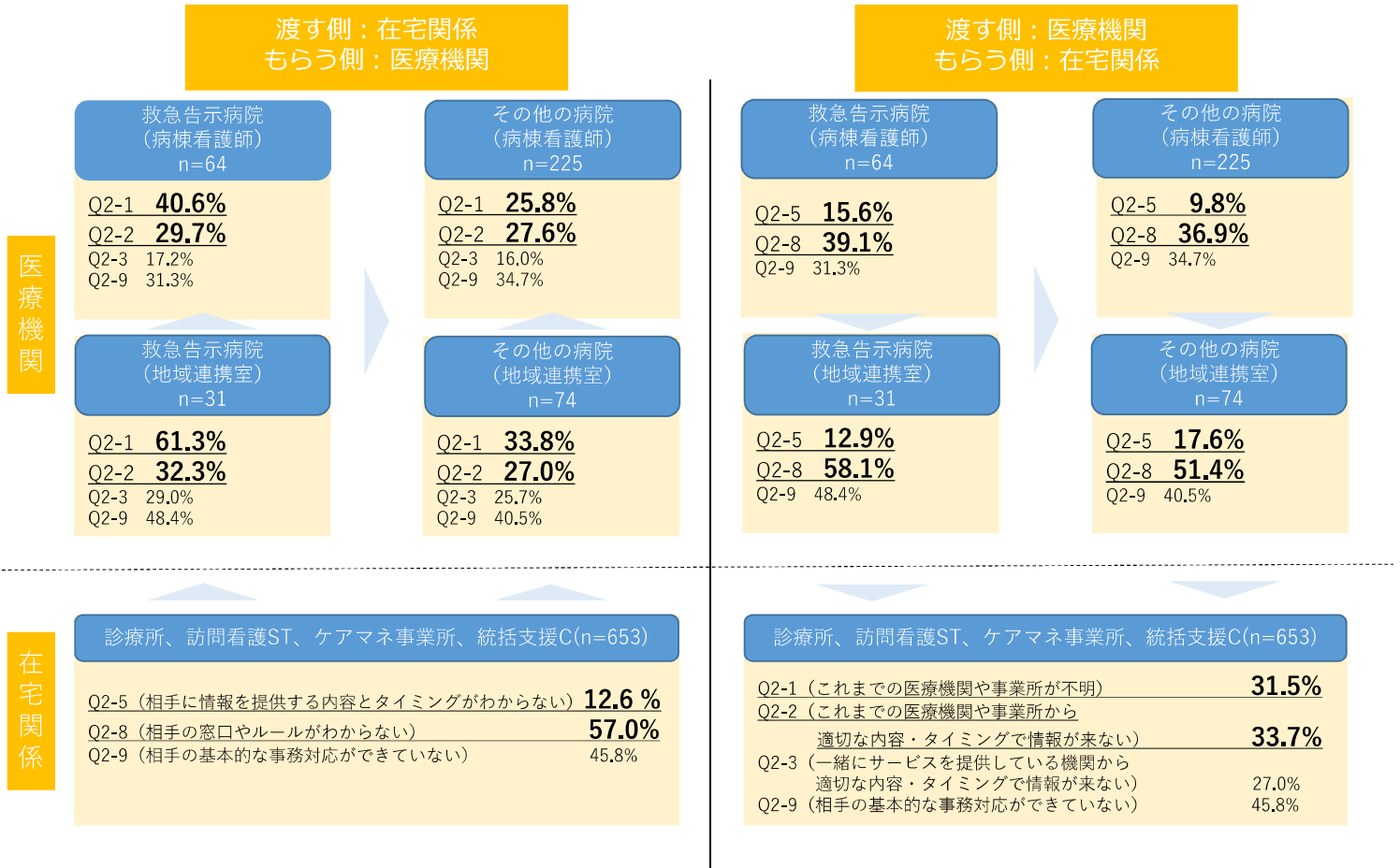
〔全体の考察〕

1. 職員の負担の軽減、患者・利用者への的確な支援のためには、医療・介護連携における情報伝達をより円滑にすることが、必要があると考えられる。(Q7)
2. 患者・利用者情報の取得のための何らかのツールや各医療機関や介護事業所の窓口やルール等の一覧(見える化)などへのニーズが高く、これらを具体化していく必要がある。(Q4)
3. また、それに伴い、研修会・勉強会の体系化・充実(ルール・ツールの定着や、効果が数字でわかるようにする)を図る必要がある。(Q1)
4. ルール・ツールの具体化に当たっては、できるだけ現場や実務への負担が少ないものとすること、きちんと各医療機関や事業所の事務(マニュアル等)に位置づけることが必要である。また、市内の医療機関・事業所の協力意向の「見える化」が有効である。(Q5、6)
5. 「行政(市)から強く協力を求める」の選択率が低かったことから、行政主導よりも行政と職能団体や地域が連携し取組みを進めていく手法の方が有効であることが推測される。(Q5、6)

(参考:クロス集計)

- ・東(門司・小倉南北)と西(八幡東西・若松・戸畑)での比較→全体の傾向と大きな違いはなし
- ・外部と連絡調整を行っている者と全体との比較→全体の傾向と大きな違いはなし
- ・Q7で「情報伝達がうまくいかないことによって患者・利用者への支援・療養に(やや)支障が出ている」を選択した者と全体との比較→Q2で「情報の伝達がうまくいかないことが(よく)ある」を選択した割合が全体的に高い。

Q2 結果の補足：情報を渡す側ともらう側でのギャップ ※Q-Noの選択肢ア・イの選択率を掲載



〔Q2 連携の場面ごとの困りごと〕

参考:再掲

Q2. 現在の業務の中で、情報の伝達について以下のようなことはありますか？

それぞれのNoについて

ア. よくある イ. ある ウ. あまりない エ. 全くない オ. わからない で回答してください。

No	項目
No1	新しく患者・利用者を引き受けるときに、今まで患者・利用者に関わっていた医療機関や事業所がわからない(情報が無い)ことがある
No2	新しく患者・利用者を引き受けるときに、今まで患者・利用者に関わっていた医療機関や事業所から適切な内容・タイミングの情報が来ない、又は求めても提供されないことがある
No3	現在、患者・利用者と一緒にサービスを提供している他の医療機関や事業所から、適切な内容・タイミングの情報が来ない、又は求めても提供されないことがある
No4	現在、患者・利用者と一緒にサービスを提供している他の医療機関や事業所に、情報を提供する「内容とタイミング」がわからないことがある
No5	患者・利用者を次の医療機関や事業所に引き継ぐときに、情報を提供する「内容とタイミング」がわからないことがある
No6	適切な内容やタイミングで情報が来ないため、連携に関する診療報酬や介護報酬がうまく取れないことがある
No7	服薬・口腔・栄養状態など患者・利用者のどこを見て、また地域のどの専門職にどのようにつなげばいいかわからないことがある
No8	各医療機関や事業所の窓口がわからない、また医療機関や事業所によってルール・マニュアルに差があり、それを把握したり、合わせたりすることが大変だと感じることもある
No9	他の医療機関や事業所に対し、基本的な事務対応(電話のかけ方やアポイント、メモの取り方など)を身につけて欲しいと感じることがある
No10	医療機関や事業所によって説明がバラバラで、家族が医療・介護の流れを理解しておらず、情報の共有や転院、入退院がスムーズにいかない